

1. 調査の背景と目的

1. 1 調査の背景と目的

■ 今、求められている「人間中心のまちづくり」

- ・急激な人口減少の時代を迎える中、従来とは全く違うまちづくりのあり方が問われている。人口や経済の成長期における常識が通じなくなり、様々な努力が行われているにも関わらず、期待する成果を挙げることができずに多くの日本の都市が日々苦闘を続けている。これまでの考え方にとらわれない、新たな発想への転換が求められている。
- ・他方、世界に目を向ければ、まちづくりにおいて、今、改めて注目されている考え方がある。それは、「人間中心の発想にたつまちづくり」を行うことである。安全・安心で、快適で、心地よい環境とは何か一人間の感覚や生態に配慮したまちづくり、鳥の目線で考える都市計画ではなく、人間の目の高さや皮膚感覚にもとづくデザインの重要性が広く認識されつつある。デンマークの首都・コペンハーゲンは、50年も前、1960年代に既にその認識にたって都市の再生に取り組み始め、今では、まちづくりの成功例として世界にその名を知られている。

■ 「居心地の良い」公共空間が、賑わいをつくっていくという考え方

- ・道路や公園など、公共空間をめぐる状況も厳しさを増している。今後、財政が一層逼迫する状況となることが予測される中、これまでに整備してきた膨大なインフラをいかに上手に活用するかが問われている。公共空間は各都市における貴重な資産であり、それぞれの創意工夫によってその資産を有効に活用し、経済活動を活性化させて、税収の増加によって自治体経営を健全化させる発想が不可欠なものとなりつつある。
- ・このような中、道路や公園などの公共空間を日常的に居心地の良い場とすることで、賑わいや活気を創出する取組みが、まちづくりの成功例として注目を集めている。ニューヨークのブライアントパークでは、かつては麻薬取引の現場としてもその悪名を知られたような公園を再生し、現在は昼夜を問わず、多種多様な人々が訪れ、年間600万人もの人が訪れ、時間を過ごす市民の居場所へと変身した。これに伴い、公園内外において様々な店舗やサービスが行われ、その経済的な効果も大きなものとなっている。
- ・これは一例に過ぎないが、こうした取り組みには、補助金を使ってお店を誘致したり、箱モノをつくることによって賑わいと呼ぼうとするのではなく、自由に集まって思い思いの時間を過ごすことができるような「居心地良い場」をつくるのが、人を呼び寄せ、賑わいの形成へとつながり、その結果としてさらにその居心地を高めるような新たな商品やサービスの提供が経済活動の活性化につながるプロセスが重要である、という基本的な考え方がある。

■ 公共空間利活用の実証実験により、目で見てわかる機会をつくり、ノウハウを共有する

- ・こうした考え方は、概念的には理解できても自らが実例を目の当たりにし、これを体験しなければ、なかなか納得のいくような理解をすることは難しい。また、理解したところで、実際にどのようにすれば既にある公共空間を居心地よい場へと変身させることができるのか、そのノウハウやポイントをこころ得ていなければ、的外れな真似ごとになってしまう

いかねない。居心地の良い公共空間形成のあり方に関しては、利用者が自由に動かせる「可動イス」の効果的な活用や、居心地を高めるために求められる環境条件など、既に海外の研究者や専門家によって、その知見やノウハウが蓄積されつつある。しかし、我が国においては、こうした考え方も実現するためのノウハウも、一部の専門家を除いて、一般に広く普及・浸透しているとは言えない状況にある。

- ・このような背景を踏まえ、本調査では、この分野における専門家等の協力を得ながら、道路や公園など、実際の都市空間において居心地よい公共空間の利活用を行う実証実験を行うことにより、目で見ても、体験できる機会を提供するとともに、実験の結果から公共空間の利活用に必要な知識・情報・ノウハウ等を抽出して、今後の取組の水平展開に役立てる。また、本調査で行う実証実験に関わらず、既に各地で始まっている先進的な取組みから得られる情報やノウハウを、効果的に周知、活用できるようにするための方策についても、あわせて検討する。

1. 2 調査報告書の構成

本調査の報告書は、以下の内容によって構成されている。

第2章 海外事例の整理・分析

- ・今後の我が国における公共空間の魅力的な利活用の参考とするため、海外における居心地よく賑わいを創出するような公共空間活用の先進事例について注目すべき例を抽出し、参考とすべき着眼点等について整理する。

第3章 実証事業の実施

- ・本調査の実証事業の実施にふさわしい地区を2地区選定し、それぞれに実証事業の企画内容とその実施結果について整理する。

第4章 発信・共有すべきノウハウ、情報の整理

- ・実証事業の結果にもとづいて、今後、他の地区で公共空間の魅力的な利活用を進める上で有効な情報やノウハウを抽出、整理する。

第5章 情報発信・共有化方策の検討

- ・今後、全国の都市でこうした取り組みを広めていくためには、先進的な取り組みを進める地区の情報を活用可能なかたちで整理し、広く共有するための仕組みを持つ必要があることから、必要な情報の内容とこれを共有する方策について検討する。